オーディオ実験室収載

ヴィヴァルディ盤を聴く(10)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(10)－

１．始めに

LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデルのアナログ盤を聴き直してきました。今回もヴィヴァルディ盤を聴いてみることにしました。

２．ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat Ⅱの導入(2)で報告した Magic Mat Ⅱを使用しています。

今回は、次のヴィヴァルディ盤を聴いていきます。

PHILIPS　6599-133

アントニオ・ヴィヴァルディ	ヴァイオリン協奏曲ハ長調
	ヴァイオリン協奏曲イ長調
	ヴァイオリン協奏曲ト短調
	ヴァイオリン協奏曲変ホ長調
イムジチ	

PHILIPS　6599-134

アントニオ・ヴィヴァルディ	ヴァイオリン協奏曲イ短調
	ヴァイオリン協奏曲イ長調
	ヴァイオリン協奏曲変ロ長調
	ヴァイオリン協奏曲ニ短調
イムジチ	

PHILIPS　6599-135

アントニオ・ヴィヴァルディ	二つのヴァイオリン協奏曲変ロ長調
	ヴァイオリン協奏曲ト長調
	ヴァイオリン協奏曲ハ短調
	ヴァイオリン協奏曲ロ短調

イムジチ

３．ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴結果

上記は、前報(7)結果から、オランダ盤ということで TELDEC、R、第 4 時定数 Mid でしたので、その条件で聴いていきます。

上記の 3 盤は、「ラ・チェトラ」は小型の撥弦楽器リラを指す意味だそうです。

PHILIPS 6599-133 盤は、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。明るく爽やかで明晰な演奏が展開されます。「ラ・チェトラ」という楽器のリラは聴いたことがありませんので、そのイメージは浮かんできません。このシリーズは演奏される機会が少ないのですが、これまでに聴いてきた、調和の幻想、ラ・ストラヴァガンツア、和声と創意の試みなどのシリーズに比べて完成度が劣ることはなく、ヴィヴァルディの音楽性を評価できます。

PHILIPS 6599-134 盤は、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。6599-133 盤と同様、爽やかで歯切れの良い演奏です。

PHILIPS 6599-135 盤は、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。6599-133 盤と同様、爽やかで歯切れの良い演奏です。なお、ヴァイオリン協奏曲ト長調の第 2 楽章は、ヴァイオリンのソロとピチカートの演奏ですので、ピチカートが撥弦楽器のリラを想起させることで、ラ・チェトラの命名となったのかもしれません。

４．まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンチスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G や Magic Mat Ⅱの結果をトレースでき、これらのレーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上